

板締め 雪花絞り を体験



興正寺僧侶、職員から布の折り方など説明を受ける子どもたち

四季折々に、さまざまな子ども向けの行事を開催する八事山興正寺。昭和区八事本町Ⅱの「子ども寺子屋」の「はら」。この夏は7月31

八事山興正寺 子ども寺子屋くらぶ

日、昨年も好評だった有松に伝わる染色「板締め雪花絞り」を行い、約20人の子どもたちが午前と午後に分かれて体験しました。

始めに、講師の興正寺僧侶と職員から、「藍色が持つ意味」や「昔の藍の色を作る方法」など藍染めについて学び、板締め、染め方の説明を受けてから回廊での実践に入りました。木綿の布を折たたみ、フランス



僧侶らに見守られながら、楽しそうに体験する安田峻太郎君(左)と悠馬君

チックの板で締めて、少しずつ藍色の液に付けていくところなど、子どもたちは「どんな模様にな上がるかな?」と、興味津々。楽しそうに参加していた

安田峻太郎君(八事東小5)は「布を折るところで角をそろえるのが難しかった」と、弟の悠馬君(同2)は「空気に触れると色が変わるところが不思議だった」と感想を話していた。話ししていました。

大喜びでした。

興正寺僧侶の智弘さん(41)と圭照さん(25)は

「楽しそうに参加してもらい、模様にはそれぞれに個性が出ていてよかったです」と話していました。